

Rice Lodge Ohgata

提携米通信

2012年4月号・黒瀬農舎



今年も春の到来は遅いようです。

長年の「暖冬」が転じて、今年の冬は久しぶりに「秋」の冬らしい厳しい寒さがずっと続きました。

その寒さも、2月の末から「春」の陽射しを感じさせる日が時々のごくようになりましたが、3月に入り、逆戻り。例年以上に毎日寒い日ばかりです。

除雪を行わない日 圃の道に出来た「吹き溜まり」の雪も、例年だと3月10日頃には融けますが、今年は、3月20日を過ぎても融けず、日 圃の小屋に付き来できませんでした。

上の写真は、3月末にやっと日 圃の小屋にたどり着いた時のスナップです。このように、例年には見られない多くの残雪がまだありました。

我が農舎は、毎日お米の精米や発送作業を行っていますが、冬の間の廻りの作業倉庫には人影がほとんどありません。

でも、春作業の時期を迎え1週間ばかり前から、急に賑やかになってきました。我が家も種粃の準備を始めました。

また、半地は、放射能汚染を免れましたが、外部から汚染資材を持ち込まないよう、毎月予定の有機資材すべてについて、念のために放射能検査を行って万全の体制で臨んでいる事をご紹介しました。その検査結果は……。

予定していた資材の中で、1種類だけに汚染がありました。それは、関東方面の精米所から集めた米糠を原料に使った「米糠ペレット」です。

極端な汚染ではありませんでしたが、早速発注を取り消し、安心できる物と取り替えました。この米糠の原料はお米です。関東方面で販売されているお米には、汚染されたお米が相半量混ざっている現れです。矢張り確認検査は必要でした。

これからも十分留意して、万全を期していきたいと思っていますところです。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッヂ大潟 代表 黒瀬 正

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

中国米の販売開始とTPP

3月10日から中国米が大手スーパーの専売で売られ始めました。

20年近く前の米パニックの時には、大量に緊急輸入した中国米は、品質が劣悪（おおよそ食べ物とは言えない状態）で、ほぼ全量が売れ残りしました。



また、数年前には、餃子（ギョウザ）事件を始めとして、農薬や食品添加物の安全性の面で、ほとんどの人が「中国食品」にはそっぽを向いていたものです。

今世の専売などの商魂は、原発による放射能汚染で「中国よりも中国農産物の方が安全である」という空気を即座に活用した逞（たく）しいものです。

また、マスコミによると、安いだけではなく、味も美味しく、消費者にも好評だと報じています。

私も早速手に取って、試食してみました。

炊き上がったご飯の見た目は、大きく変わりません。でも、食感、香り、味すべて落第です。

しかし、報道は多分嘘ではないのでしょうか。この中国米が「美味しい」と感じる日本人が多数あるのも事実のようです。

「味音痴」を嘆いても始まりません。私たち日本の農家も奮起が必須です。

さて、中国米の話題のついでに、TPPについて少しふれてみます。

TPPの議論は、半時の菅総理が、昨年突然唱え始めた頃からすると、交渉参加を決定した後の最近になって、議論がやや本質に近づき充実してきたようです。

半初頃は「TPPに参加せずに、世界の孤児になる道を選ぶのですか。」「日本の農業生産2兆円を生かすために、輸出産業を崩壊させるのか。」そうでないとするなら、TPP参加を推進することは半然だ。と二重丸の主張を推進派はしていました。

一方で、既得権益を守ることに徹している農協などは「日本の農産物は、負けるに決まっている。日本の農業も地力も崩壊する。絶対反対だ。」と反論。

更に、これに対して菅政権や推進派は「日本の農産物は良質だから、輸入があっても負けない。また、輸出もできる。」加えて、果集めのために「農業、農村は入りだから欧州並みの所得補償で援助する。」などと反論。

このように、実態から遊離した、非常に短絡観念的な論争だけが横行していました。

ところで、私は、かつてのガット・ウルグアイランドの頃までは、グローバル化は人々の生活にとって有効だ感じていました。理由は、その頃までの世界経済環境は、实体经济が主導する市場経済が進展しつつある時代だったからです。

しかし、その後の世界の経済社会は、金融資本主義へと大きく変わりました。

現状に於ける世界のGDPは約70兆ドル。これに対して金融資産は实体经济の4倍約280兆ドル、と言われていています。この結果、リーマンショックを生み、ヘッジファンドによるかつてのタイペソの混乱。日本でも村上ファンドやホリエモンがもて囃される風潮を生み、最近では、ギリシャの収縮やA I Jの年金基金詐欺事件。

金融工学というマジックを駆使し、金を金で売買する。原油も穀物も実際の需給と離れて投機マネーが支配する。

これでは、どの産業の労働者だけでなく経営者を含めて、実際の産業界で汗をかいた人々の、努力も勤勉も苦学も、死ぬまで報われることはありません。

TPPに参加して、米の自動車輸入関税の3%が0%になったとて、マネーファンドが為替レートをいたずらすれば、自動車や電気の輸出産業も壊滅です。

TPPは日本農業の利益問題だけではありません。これからの時代に貿易の自由化は下月ではありませんし、実際金融産業も必須です。でも、实体经济を補償する金融秩序の構築が先決です。フェア公正な目目で民衆的な実際ルール作りが待たれます。